

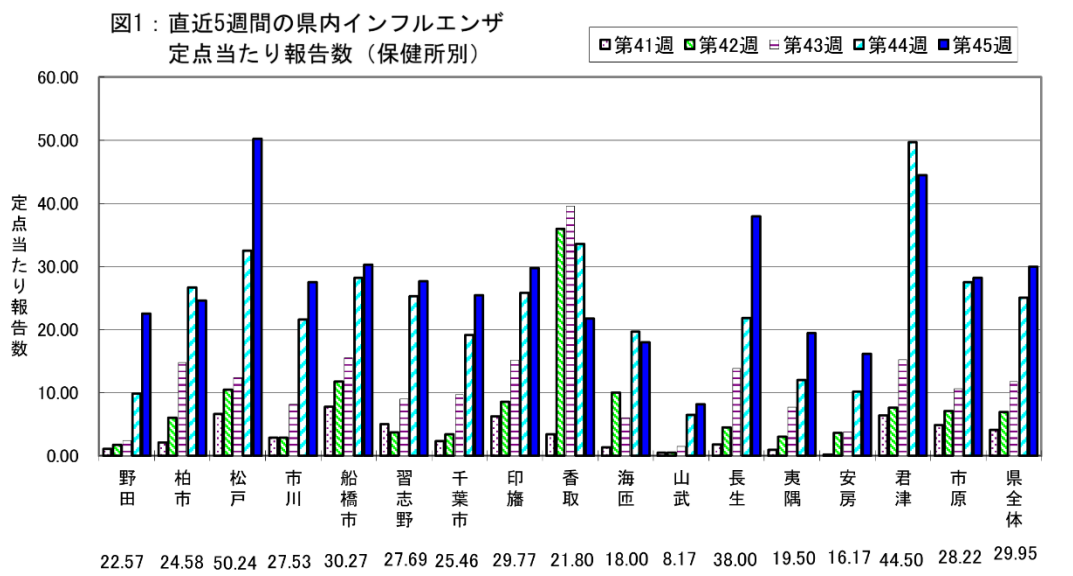
【今週の注目疾患】

《インフルエンザ》

千葉県では、インフルエンザ注意報を発令中です¹⁾

第45週における定点当たり報告数は、前週の25.04(人)から増加して29.95(人)となった。2025/26シーズン(2025年第36週から2026年第35週までの期間)に入ってから定点当たり報告数は増加し続けており、引き続き注意が必要である。

県内16保健所中12保健所管内において前週から増加しており、特に、松戸(50.24)、君津(44.50)、長生(38.00)保健所管内が多かった(図1)。

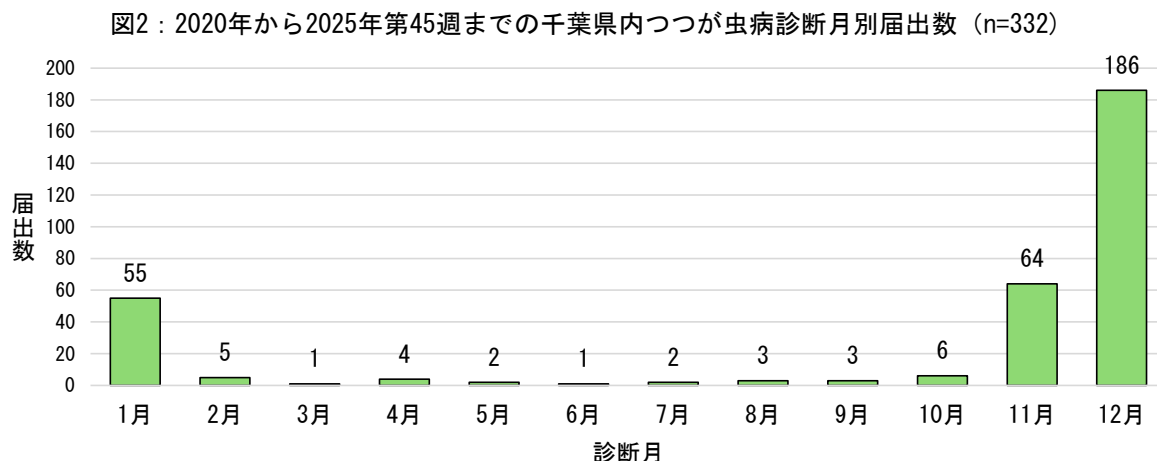


■参考・引用

1)千葉県健康福祉部疾病対策課：インフルエンザ注意報の発令について(令和7年10月29日)
<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/press/2025/infulu1029.html>

《つつが虫病》

2025年第45週に県内医療機関から1例の届出があり、本年の累計は11例となった。県内では、例年11月頃から翌1月頃にかけて届出数が増加する傾向にあり(図2)、注意が必要である。



2020年から2025年第45週までに届出のあった332例の概要は下記のとおり。

性別では、男性195例（59%）、女性137例（41%）であった。年齢階級別では、70代が126例（38%）と最も多く、次いで60代76例（23%）、80歳以上69例（21%）であり、60代以上が全体の8割以上を占めた。

つつが虫病の病原体は *Orientia tsutsugamushi* と呼ばれるリケッチアで、ダニ類の一種であるツツガムシが媒介する。わが国で本菌を媒介するツツガムシは主に3種類であり、それぞれのツツガムシの0.1%から3%が菌をもつ有毒ツツガムシである。ヒトはこの有毒ツツガムシに吸着されると菌に感染する。潜伏期間は5日から14日で、典型的な症例では高熱を伴って発症し、皮膚には特徴的なツツガムシの刺し口（黒色痂痂）がみられ、その後数日で体幹部を中心に発疹がみられるようになる。また、患者の多くは倦怠感、頭痛を訴え、患者の半数には刺し口近傍の所属リンパ節、あるいは全身のリンパ節の腫脹がみられる。有効な抗菌薬（第一選択薬はテトラサイクリン系）があるが、死亡例が報告されているため、早期に本症を疑い、適切な診断・治療を行うことが重要である¹⁾。

本疾患を予防するワクチンはないため、ダニの刺咬を防ぐことが極めて重要となる。農作業や草刈り、キャンプやハイキング等で山林や草むら等に立ち入る際には、以下の対策をとる¹⁻³⁾。

- (1)長袖長ズボンなど肌の露出が少ない服装にする
- (2)忌避剤（防虫スプレー）を使用する
- (3)地面に直接座らずにレジャーシート等の敷物を使用する
- (4)帰宅後はすぐに着替え、洗濯する
- (5)帰宅後はすぐに入浴する

■参考・引用

- 1)国立健康危機管理研究機構：IDWR ダニ媒介感染症：つつが虫病・日本紅斑熱
<https://id-info.jihs.go.jp/niid/ja/tsutsugamushi-m/tsutsugamushi-idwrc/10682-idwrc-2136t.html>
- 2)千葉県衛生研究所：つつが虫病に注意!
<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/eiseikenkyuu/virus/documents/tsutsugamushi.pdf>
- 3)千葉県健康福祉部疾病対策課：ダニ媒介感染症について
<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/tick.html>